

琵琶湖博物館 第三次中長期基本計画

令和 3 年度から 5 年間の事業計画

(令和 3 年度時)

【事業目標 1】琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

指標：琵琶湖研究を中心とした湖と人間の研究が推進される

1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究計画の実施

- ・5年間の事業：既存の研究プロジェクトのとりまとめと新しい複合分野の研究プロジェクトの立ち上げを進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	各年次報告書提出	総合研究・基盤B研究の推進 次期総合研究の検討開始
2022	基盤 B 最終報告書提出	総合研究の推進 基盤 B 研究のとりまとめ 次期総合研究の内容・体制の検討
2023	総合研究最終報告書提出	総研「過去 150 年」とりまとめ 次期総合研究の研究計画調書提出
2024	新総合研究年次報告書提出	新総合研究の立ち上げ
2025	館内において複合分野の研究プロジェクトが企画、実施されている。	新総合研究の実施

1-2. 研究成果を国内外に発信し、国内外の研究者が参加する研究を推進する

- ・5年間の事業：ウェブを中心とした新たな研究発信方法の構築とコンテンツの充実をはかる。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	リサーチマップの掲出と更新	既存の枠組みでのウェブ発信
2022	J-stage への研究報告書掲載	J-stage への研究報告書掲載手続き
2023	コンテンツ案策定	ウェブ掲載コンテンツの検討
2024	新コンテンツのウェブ掲載	新コンテンツのウェブ掲載
2025	琵琶湖地域に関する研究成果が、ウェブを中心として適切な媒体によって国内外に発信されている。	新コンテンツの改良

1-3. 研究の質を高める研究環境の整備

- ・5年間の事業：耐用年数を超えたり故障した研究備品を更新し、共同利用を推進する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	最新の備品更新計画策定	備品更新計画の更新 既存の施設備品による研究推進
2022	備品調達方法のリストアップ	備品調達方法の検討 既存の施設備品による研究拠点形成の検討

2023	備品調達方法の改善 既存の施設備品による研究成果の公開	備品調達の試行 既存の施設備品による研究拠点形成
2024	大型備品の確保	必要備品(電子顕微鏡や調査船)の確保 既存の施設備品による共同利用の推進
2025	琵琶湖研究に必要な研究設備が整備される	新規購入備品を使った研究の促進 共同利用の推進

~~~~~

**【事業目標2】 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備**

指標：整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使える

**2-1. 標本・資料の管理体制の強化**

・5年間の事業：開館から25年が経過し収蔵庫の保管環境や作業環境が悪化しているため、計画的に改善を図るとともに、IPMによる管理体制を強化する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                            | 進めること                                                                            |
|------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 収蔵庫空間の設備の不具合の原因が把握できている                               | 収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の情報集約。民俗収蔵庫1の雨漏りの原因究明と修繕。                                |
| 2022 | 問題のある設備改修の予算申請の年次計画を立案                                | 収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の一斉点検。収蔵庫(映像と民俗1)空調用冷水バルブ修理／蛍光灯の安定器故障による照明器具のLED改修予算の要求。 |
| 2023 | 収蔵庫空間のIPM体制の問題点が把握できている。環境改善に向けた予算申請。改修工事により改善された環境。  | 予算がついたものの改修工事。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。IPM体制の問題点の情報集約。                                |
| 2024 | IPM体制の改善。改修工事により改善された環境。環境改善に向けた予算申請。                 | 予算がついたものの改修工事。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。IPM体制の改善案を検討。                                  |
| 2025 | 再構築されたIPMにより定期的な管理体制が確立する。改修工事により改善された環境。環境改善に向けた予算申請 | 予算がついたものの改修工事。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。収蔵庫環境の管理体制の構築。                                 |

## 2-2. 標本・資料の整理の推進と公開によるデータベースの充実と利用促進

- ・5年間の事業：従来より進めてきた収蔵品データベースへのデータ入力を引き続き行うとともに、画像データが付加されたより魅力的なデータベースとなる。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                | 進めること                                                |
|------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 2021 | ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む                | 緊急雇用による資料撮影と新規登録                                     |
| 2022 | ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む                | 資料写真整理体制の検討                                          |
| 2023 | 資料写真整理とデータベースへの登録が進む<br>ウェブ公開のための体制が整備される | 資料写真整理体制の整備<br>データベース編集作業、データベース画面デザイン、博物館ウェブページとの調整 |
| 2024 | データベース運営における問題点の抽出と改善方法の検討                | データベース運営における問題点の検討                                   |
| 2025 | データベースがスムーズに運営されている                       | データベース運営における問題点の改善                                   |

## 2-3. ICT 利用による博物館資料について画像を中心とした資料情報の公開

- ・5年間の事業：リニューアル後の常設展示資料情報に対応したウェブ図鑑の公開を進める

| 年度   | 達成する状態（目標）                                 | 進めること                              |
|------|--------------------------------------------|------------------------------------|
| 2021 | 写場の設備計画の立案<br>多面的な音声ガイド情報が公開               | 写場の設備の現状把握<br>多面的な音声ガイド情報の整備       |
| 2022 | 写場の設備が整えられている<br>ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積が進む | 写場の設備を更新<br>ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積 |
| 2023 | ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積が進む                  | リニューアル後の常設展示資料情報の整理                |
| 2024 | ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積が進む                  | リニューアル後の常設展示資料情報の公開における問題点の検討      |
| 2025 | リニューアル後の常設展示資料情報と連携したウェブ図鑑の公開              | リニューアル後の常設展示資料情報の公開における問題点の改善      |

~~~~~

【事業目標3】 みんなで学びあう博物館へ

指標：利用者が実施者になった多様な交流事業と情報交換が行われる

3-1. 多くの人が関わる多様な交流事業を実施する

- ・5年間の事業：利用者との対話を通じて交流事業のニーズを確認しながらメニューの充実を図る。また、交流事業の実施者の多様化を促進する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	琵琶湖博物館全体の交流事業の現状が把握される。	これまでの交流事業の実績を他の係の実施分も含めて整理し、現情を把握する。
2022	交流事業の充実のための計画や方針が策定される。	博物館が提供できる(すべき)交流事業の候補をリスト化し、さらにびわフェス等でニーズの確認を行う。その結果をもとに交流事業の充実のための方針を策定する。
2023	計画的なメニューの充実が進むとともに、実施者の多様化も進む	交流事業の充実のため、学芸職員やはしかけ、外部団体等に声かけや相談をしてメニュー作りを進める。また継続的にニーズ調査を行う。
2024	計画的なメニューの充実が進むとともに、実施者の多様化も進む	交流事業の充実のため、学芸職員やはしかけ、外部団体等に声かけや相談をしてメニュー作りを進める。また継続的にニーズ調査を行う。
2025	交流事業が充実するとともに、実施者も多様化する。	館内外の人びとと共に、これまで5年間の交流事業の実践を検証する。

3-2. 博物館利用・参加方法の制度的幅を広げる

- ・5年間の事業：フィールドレポーター制度やはしかけ制度およびそれらの出会い・発表の場であるびわ博フェスを基盤に、参加する層を拡充し多様性を高めることで目標を実現する。最初の5年間は団体・企業当の参入を促すため団体向けのはしかけ制度的なものを作る。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	登録制度の概要についての整理	団体向け登録制度に関する情報収集
2022	制度運営に必要な要項等の整備	団体向け登録制度発足の準備
2023	登録開始、利用実績作り 拡大びわ博フェス開始	団体向け登録制度の開始 びわ博フェスへの団体の参加
2024	登録団体の拡充と利用実績の増大 拡大びわ博フェス	団体の勧誘 びわ博フェスの計画・運営方式の検討
2025	さまざまな個人と団体が博物館を利用して活動を行い、人々の出会いの機会が増加している	交流状況についての効果測定とまとめ

3-3. 体験を重視した琵琶湖学習ができる教員の養成

- ・5年間の事業：「深く学ぶ力」による学習では体験が重視されるが、琵琶湖学習においては教師自身の「体験」の機会が少なく有効な教材を生み出しにくい問題がある。この問題を解消するため、研修によって教師自身の「体験」を支援する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	教師が「体験」的な教材を生み出すために役立つ研修の構築	研修内容の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集
2022	受講者の意識向上を指標に改良された研修の実施	研修の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集
2023	受講者の意識向上を指標に改良された研修の実施	研修の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集
2024	受講者の意識向上を指標に改良された研修の実施	研修の見直しと試験的实施 事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集
2025	教員が体験的な教材を主体的に生み出せる教員研修の確立	研修の継続的な実施 研修の成果まとめ

~~~~~

#### 【事業目標4】もっと使いやすい博物館へ

指標：湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える

#### 4-1. 誰もが楽しみ学べる展示手法とガイド機能の強化

- ・5年間の事業：視覚障害者と外国語使用者への対応として音声ガイドを導入したが、その性能上、一部の展示しかカバーできていない。最初の5年間はこの問題に取り組むこととし、可能な限り多くの展示へのアクセシビリティを確保するため、新たなICT技術を用いたガイド手法を導入する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                            | 進めること                  |
|------|---------------------------------------|------------------------|
| 2021 | 採用する手法の候補が決まる                         | ガイド手法についての情報収集         |
| 2022 | 展示室においてテストが行われ、実現性や課題が明らかになる          | ガイド手法の試行               |
| 2023 | 新しい手法によるガイドの数が増え、その効果についての検討が行えるようになる | 新しい方法に合わせた展示解説の作成と配置開始 |
| 2024 | 効果測定に基づく改良と解説項目の増加が進む                 | 解説の追加・改良               |
| 2025 | 常設展示室の展示の大半に解説がつき、アクセシビリティが向上する。      | 解説の追加、改良<br>利用者による評価   |

#### 4-2. 「観る」展示から「観る＋使う」展示への成長

- ・5年間の事業：展示室から現場の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ仕組みを、インターネットの利用により実現する。外部から展示室を利用する方法については重点事業 5-1 で展開し、6年目以降に両者を活かしたプログラム作りを進める。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                      | 進めること                          |
|------|-------------------------------------------------|--------------------------------|
| 2021 | 方法の検討と小規模な試行                                    | 方法の検討と小規模な試行                   |
| 2022 | 展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みについて情報が得られる。     | 博物館から現場の情報を取得する仕組みを一部の展示を使って試す |
| 2023 | 展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みが強化される。          | 博物館から現場の情報を取得する仕組みを試す範囲を広げる    |
| 2024 | 展示室から外の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ利用方法が来館者に認知されるようになる。 | 博物館から現場の情報を取得する楽しみについてのPR      |
| 2025 | 展示室と現場をつなぐ楽しみ方の認知が広がり、一般に利用されるようになっていく。         | 仕組みの充実                         |

#### 4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

- ・5年間の事業：常設展示の情報の見直しと修正を、リニューアルが終了した時期の早いものから順次進め、5年間で一通りの更新を実施する

| 年度   | 達成する状態（目標）                            | 進めること                                |
|------|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 2021 | C展・水族の更新計画                            | C展・水族の更新計画を策定                        |
| 2022 | C展示・水族展示の更新の一部実現<br>大型更新のための予算要求提出    | 経常予算でのC展示・水族展示の更新<br>予算措置が必要な更新の予算編成 |
| 2023 | C展示・水族展示の更新が完了<br>A展・B展の更新計画          | C展示・水族展示の大型更新の実施<br>A展・B展の更新計画を策定    |
| 2024 | A展示・B展示の更新の一部実現<br>大型更新のための予算要求提出     | 経常予算でのA展示・B展示の更新<br>予算措置が必要な更新の予算編成  |
| 2025 | A展示・B展示の更新が完了し、常設展示の更新の1サイクル目が終了している。 | A展・B展の大型展示更新<br>次のサイクルの進め方の検討        |

#### 4-4. ICT を利用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

- ・ 5年間の事業：ウェブサイト「もう一つの琵琶湖博物館」(バーチャルミュージアム)と位置づけ、サイトだけでも琵琶湖(湖と人間)について学べるように情報を発信する。また、展示室のようすや展示解説も掲載し、疑似的な来館を実現する。最初の5年間は枠組みづくりを中心に進める。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                              | 進めること                                            |
|------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 2021 | 発信計画の素案ができる。ウェブサイト改良の第一段階が終了。展示紹介動画ができ、公開される。           | 発信計画の検討。ウェブサイト再編成(サイト統合)。博物館紹介動画(展示概要)作成         |
| 2022 | 発信計画ができる。発信準備としてページの再編成が進む。                             | 発信計画(ページ構成案)策定。ウェブサイト再編成(ページ整理)。博物館紹介動画(トピック)作成。 |
| 2023 | 各メニューの掲載が始まる。                                           | 各ページのコンテンツ作成、掲載開始。琵琶湖紹介動画の計画。アクセス解析開始。           |
| 2024 | アクセス解析により、アクセスを増やすためのルート改善が進む。                          | アクセス解析およびページの改良。コンテンツ掲載継続。琵琶湖紹介動画作成。             |
| 2025 | ウェブサイト上で「湖と人間」について学べるようになっている。また琵琶湖博物館の疑似的な来館が可能になっている。 | 発信計画のみなおし。琵琶湖紹介動画アップ。アクセス解析。                     |

#### 【事業目標5】より多くの人々が利用する博物館へ

指標：利用しやすい場所で人びとの活動が行いやすくなる

#### 5-1. 双方向の広報や各種調査による評価方法の確立と事業への反映

- ・ 5年間の事業：琵琶湖博物館の社会貢献を測定し、事業に活かせるような仕組みを運営できる組織体制を確立する

| 年度   | 達成する状態（目標）                               | 進めること         |
|------|------------------------------------------|---------------|
| 2021 | 博物館の状況を客観的に評価するための手法、目的や指標の検討を行う         | 調査・評価方針の検討    |
| 2022 | 博物館の状況を客観的に評価するための調査・評価手法を選定する           | 調査・評価方針の検討    |
| 2023 | 調査が行われ、評価結果が出るとともに当初の目的に適合するかどうかの検討が行われる | 調査の実施         |
| 2024 | 必要に応じて改善された調査が行われる                       | 調査の継続実施(改善含む) |
| 2025 | 調査評価の方法が確立し、博物館の状況を客観的に示せるようになっている       | 調査の継続実施(改善含む) |

## 5-2. 来館しやすい環境の整備

- ・5年間の事業：予約システムによる来館者の分散は2020・21年度実績より現実的でない判断。キャッシュレス・チケットレス環境は前倒しの整備となったため、2022年度をもって終了予定。ほかに想定される、多言語対応やユニバーサルデザインの推進は事業目標4にて実施する。公共交通機関の充実については、前中長期計画の取組結果より、期間を区切って結果を達成するのは極めて困難と判断し、継続的に模索するものの、重点事業化はしない。

| 年度   | 達成する状態（目標）                | 進めること                               |
|------|---------------------------|-------------------------------------|
| 2021 |                           | 予約システムの活用方法の検討<br>キャッシュレス・チケットレスの導入 |
| 2022 | キャッシュレス・チケットレス導入による利便性の向上 | 利用実績に基づくキャッシュレス・チケットレスの対象会社の拡張      |
| 2023 |                           |                                     |
| 2024 |                           |                                     |
| 2025 |                           |                                     |

~~~~~

【事業目標6】博物館の活動を安定して継続する

指標：安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる

6-1. 老朽化した施設の改修と現状での施設に合わせた災害への備え

- ・5年間の事業：「災害に強い」を重視し、災害に耐えられるような資料の保管環境を実現する改修を優先的に進めるとともに、危機管理体制の見直しを行う。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	改修・危機管理の改善に向けた準備	改修更新個所の洗い出しと分類。 危機管理項目の頭出しと既存マニュアルの再収集・整理
2022	改修更新計画。危機管理マニュアル	建物・施設改修更新計画完成。 危機管理管理マニュアル統合版完成
2023	施設改修の進捗 危機管理体制整備の進捗	標本・資料の保管環境整備開始。 危機管理のための体制整備着手、訓練・研修計画作成。
2024	施設改修の進捗 危機管理体制整備の進捗	標本・資料の保管環境整備継続 建物関係の改修・更新開始 マニュアルに基づく訓練・研修
2025	計画に基づいた建物・施設の改修が、優先順位の高い標本・資料の保管環境から進んでいる。危機管理マニュアルが職員に浸透している	標本・資料の保管環境整備継続 建物関係の改修・更新開始 危機管理マニュアル改訂作業開始

6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

- ・ 5年間の事業：支援の受入制度の整備と安定化をまず実現する

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021		リニューアル後の博物館支援の受入制度の試行
2022	びわ博サポーター制度を利用しやすくするための検討が進む	支援の受入制度の課題の抽出と最適化のための検討
2023	制度の改善のために必要な行政手続きが進められる	最適化のための手続き
2024	改良された制度が始まる	支援の受入制度の運用開始
2025	企業・団体・個人等から支援を受ける仕組みが確立している	支援の受入制度の運用